

社団法人日本青年会議所東海地区協議会

東海フォーラム 2010

開催目的

政治や経済の構造的な転換期を経て、これまでの社会システムに対する信用が揺らぎ、社会は大きく変容しようとしています。こうした社会情勢の中で、地域に活力を創り出す地域再生が強く求められ、地域社会を主体とした新しい社会システムの構築が模索され始めています。こうした社会を実現するためには、地域における多様な主体が連携する事で地域自らが課題を解決していく力が重要になり、連携によって創り出される地域の活力を「地域のたから」として、より磨き上げていく必要があります。そのためには、私たち一人ひとりの市民が、国や地域づくりの主体であり、国や地域に関わる様々な出来事や情報に関心を寄せる事が大切になっていきます。

交通の要衝として発達した歴史をもつ鈴鹿は、その地理的特性から、有史以来、多くの人たちが行き交い、時代の変遷や社会の変化に応じて様々な文化や産業が発展してきました。その所産として、心豊かで活力に満ちた地域社会を実現してきました。国際モーターレース場として知られる「鈴鹿サーキット」では、「F1日本グランプリ」の開催時に、日本全国、世界各国から多くの人たちが集まります。そして、多くの人たちが夢と希望を持って鈴鹿の地に訪れる事に、鈴鹿の人たちは誇りと愛着を抱いています。夢と希望が溢れ、地域の活力に満ちた鈴鹿の地で地域再生を大会趣旨にした東海フォーラム2010を開催します。

本年度の東海フォーラムは、東海地区協議会の事業成果を発表する集大成の場、各地青年会議所活動の情報共有を図る場にすると共に、参加いただく全ての方々に向けて「地域のたから」を発信し、国や地域づくりの主体は、私たち一人ひとりの市民にあるという意識を醸成します。国や地域の事を自らの言葉で語る人たちによって、今後の地域における活動、運動が展開される事で、84の地域がさらに活力を持ち、地域再生を成し遂げることが出来ます。このような社会変革の起点となる大会を開催し、夢に満ちた輝く東海を実現します。

大会スローガン

『地域のたからが未来を輝らす』

～今こそ私たちが地域再生の先駆けとなれ～

開催日

2010年 7月 3日 土曜日

開催場所

式典・メインフォーラム・懇親会

名 称 : 鈴鹿サーキット

所 在 地 : 三重県鈴鹿市稲生町7992

連 絡 先 : 059-378-1111



開催地選定理由

三重県鈴鹿市は、飛鳥時代以降、都から東国へ通じる交通の要衝として、また伊勢参宮街道の宿場町として栄えた歴史を持っています。戦後は自動車、電機などの企業を誘致して工業都市として発達しました。誘致企業の1つ本田技研工業によって、1962年に日本初の本格的サーキットとして建設されたのが鈴鹿サーキットです。

鈴鹿サーキットは、F1の日本グランプリやオートバイの8時間耐久レースなど国際及び国内レースなどが多数開催され、世界的にも有名な日本有数のレーシングコースとして知られています。近年では日本のモータースポーツの聖地とも言われているように日本全国からだけでなく、世界各国からモータースポーツファンが訪れ、鈴鹿市の象徴となっています。多くの人たちの希望と夢を抱かせ、また叶えてくれる場所としての大きなパワーを持つこの国際レーシング場を、東海フォーラムの会場として選定致します。

鈴鹿サーキットは、F1の国際レーシング場として知られていますが、一時期F1の日本グランプリが鈴鹿で開催されなかった時期がありました。この時、F1の聖地という鈴鹿のたからを失ってはじめて、多くの鈴鹿の人たちが失ったものの大切さを知りました。そして、関係者をはじめ多くの人たちが、手を取り合ってF1日本グランプリの再誘致に動きました。そして2009年再びこの鈴鹿の地でF1日本グランプリが開催されることになりました。そしてF1グランプリが再開されたその当日には、自治体や地域住民など多くが携わってきている鈴鹿サーキットに協力し、ホスピタリティの精神で交通整理や道案

内を行いました。

一度失ったものを一致団結して再び手にいれた歴史を持つ、この鈴鹿の人たちの活力とその息吹を感じていただき、自分たちの地域を見つめ直していただくための絶好の機会として確信し、鈴鹿の地「鈴鹿サーキット」で「東海フォーラム2010」を開催致します。

